

田野地区タウンミーティング開催報告	
日時	令和3年12月4日（土）19：00～20：30
場所	田野公民館 1階 和室
参加者	【地域側：15人】 田野自治会長、高松区自治会長、北田野区西自治会長、川根区自治会長、田野地区老人クラブ会長、田野地区婦人会長、田野保育所長、田野保育所保護者代表、田野小学校長、田野小学校PTA会長、田野小学校PTA役員2名、丹原東中学校長、丹原東中学校PTA田野小学校区長、田野の未来を描く会会長 【行政側：2人】 市長、田野公民館長
次第	1 開会 2 挨拶（田野地区自治会長） 3 市長挨拶・事業説明 4 意見交換：テーマ「未来の田野小学校について ～地域のバックアップ～」 （現状と課題説明及び参加者全員による話し合い） 5 まとめ・閉会
概要	
自治会長挨拶	寒い中集まっていたいただき、感謝する。コロナの心配もあったが、約2週間、市内での感染事例が出ていない状況であり、安心して開催できるのではないかと感じている。 今日は市長が貴重な時間を割いて、皆さんの意見を汲み取ってもらえるような機会ができたことを大変嬉しく思っている。皆さんの思いを伝える意見交換をしたいと思う。
市長事業説明	・コロナウイルス対策については、ワクチン接種の安全安心な環境整備と、市民生活を取り戻すため経済対策に重点を置く。 ・西条市の将来推計人口は30年間で約28%減少（2015年 108,174人 ⇒2045年 78,307人） ・人口減少対策として移住推進に力を入れており、みんなで「共創」して持続可能なまちを実現していきたい。
テーマに関する説明（自治会長）	田野地区においても少子高齢化が進み、約300人近くいた小学校児童数は、現在80人である。小学校の存続は、田野地区全体の人口推移にも大きく関係すると感じている。取り返しのつかない状況になる前に、地域としてできること・学校と地域の連携について意見交換したい。
参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><田野小学校の児童数等について> 令和3年度は、児童80人で9クラス（通常学級6、特別支援学級3）、教職員は14人。 令和8年度の見込みは、児童47人で5クラス、教職員は9人である。 令和4年度からは、複式学級を念頭に置いて学校経営をしなければならないが、配置される職員数で教育環境を維持したい。 いずれ複式学級を実施せざるを得なくなった場合、低・中・高学年による合同授業を実施することが対策の1つと考える。</p> <p><小規模校のデメリットについて> ・同級生が少なく、人間関係が固定されがち（関係が悪化した場合、修復が困難） ・登下校時の安全面が不安（集団下校が困難） ・PTA役員1人当たりの負担増 ・教職員数の減少による負担増 ・専門知識（音楽やICT等）をもつ人材の不足</p> <p><小規模学校のメリットについて> ・人数が少ないので、出番が多い ・学年を超えた繋がりが強く、連帯感が大きい ・子ども一人ひとりに教職員の目が行き届く ・地域との関わりが密接で、柔軟な対応が可能</p>	<p>より良い教育環境は何かという課題だが、人口減少が進む中でますます大きな問題となる。 これまでは、子ども達の声がある限り、学校の統廃合は行わない方針だったが、子ども達のことや望ましい教育環境を考えると、方針を変えることも視野に入れていく。</p> <p>令和2年度に「教育に関するアンケート調査」を行った。その中で、小学校6年生の保護者・現場の教員からは複式学級を望まない（保護者：1学年1学級以上、教員：1学年2学級以上が望ましい）という回答結果を得た。</p> <p>中川地区タウンミーティングでは、地域に学校を残したいため、丹原西中学校と中川小学校を統合してほしいという地域の声を伺った。 令和4年1月には愛媛大学の先生にもアドバイスをいただきながら、議論を進めていく。慎重に進める必要があるため、皆さんともしっかりと協議したい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><学校と地域の連携について></p> <p>少人数の良さを活かせるように、工夫して学校経営を行いたい。児童・保護者数が減っても、人手を要する行事開催自体は変わらないので、PTAや地域の皆さんに協力していただきたい。</p> <p>運動場に生える草の多さに困っている。</p> <p>PTAや地域の皆さんに伐採・剪定してもらい、本当に助かった。今後も除草作業等で助けてほしい。</p>	<p>田野小学校の剪定作業では、大勢の方が学校のために力を貸してくださったと聞いている。</p> <p>PTAや地域の皆さんで学校活動等を盛り上げてほしい気持ちはある一方で、ボランティアによる高所作業などは危険を伴う。作業中に事故があってはいけない。こうした作業については、限られた予算ではあるが工面しながら、行政がしっかり対応していく必要があると考えている。</p>
<p>PTAでは古紙回収を行っているが、保護者だけでなく、地域の人にも積極的に協力してくれる。</p> <p>この収益で学校の校旗などを購入したいと考えている。</p>	<p>民間企業においても、ごみの減量化に向けた取り組みが進んでいる。</p> <p>資金を集める手段の一つに、クラウドファンディングも考えられる。</p>
<p><保育所の現状について></p> <p>現在の園児数は34人で、そのうち田野地区在住は22人である（定員60人）。地区外からの入所希望があると感じる。</p> <p>剪定や園庭整備については、若干予算があるものの、作業が追いつかない時期には職員その他、保護者の協力が必要な状況である。</p> <p>暑い中、保育所長が剪定している姿を何度も見た。地域の人に声をかけてくれれば、お手伝いできるのではないかと。</p> <p>また、園児数の減少は、昔に比べて保育士の確保が難しく、定員まで受け入れができないためだと聞いた。勤務の様子を見ているので、保育士の給与を上げ、人数を確保してほしい。</p>	<p>おっしゃる通り、庭園整備は大変な作業である。学校の先生や保育士達には、子ども達に向き合う時間を増やしてもらいたいので、行政（事務方）はそれ以外の分野で柔軟に対応していきたい。</p> <p>また、保育士確保については賃金も重要だが、大学や短大へ出向いて西条市の特色をPRするなど、人材確保のために取り組んでいる。</p> <p>全国的に、公立保育所・幼稚園は認定こども園へ移行する流れであるが、皆さんとしっかり協議し、細やかな配慮をもって対応していきたい。</p>
<p><学校規模について></p> <p>児童数の多少により、それぞれ良い面もあるが、半端な数の場合は全体を見て、ある程度整理した方が良いのではないかと。</p> <p>そうしないと、多方面で無駄が生じるように思う。</p> <p>悲しいけれど、遅かれ早かれ人口は減少するので、小学校の統廃合は認めざるを得ないと思う。</p> <p>統廃合によって削減された経費で剪定を行うなど、効率的な運営ができるのではないかと。</p>	<p>より良い教育環境は何かを第一に考え、しっかりと議論を重ねていく。</p> <p>民間企業や公立高校でも、再編のような新しい形の模索があるだろう。西条市も人口減少を前提とするが、地域の課題解決に向けて積極的に取り組む活動人口を増やしていきたい。</p> <p>地域活力の維持は、学校存続ありきではなく、別の形も考えていく。地域のことは自治会だけに任せるとはならず、みんなで考えていきたい。</p>
<p><地域の良いところ・悪いところ></p> <p>友人の中には市内在住だが、田野を離れた人もいる。地域に関する意見を聞いてみた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの医療費無料は助かる。 ※中学卒業の3月末まで保険適用の自己負担分を助成 ・ごみの分別ルールが易しい。 （手間を省け、子育てに時間を割ける） ・一方でごみの量を多くする原因になり得る。 ・公共下水道が整備されている地域を選ぶ。 （合併処理浄化槽は維持費が高い） ・給食は地産地消が望ましく、安価であればなお良い。 	<p>公共下水道は本来使用料収入で運営すべきだが、税金で補填している状況である。今後、令和10年度を目標に市内で料金統一する予定だが、その後も料金を上げていくので、いずれは合併処理浄化槽の維持費と同程度になるだろう。</p> <p>医療費助成のほか、妊娠から切れ目ない子育て支援を行っている。支援策は他市より充実しているが、抜きん出ているわけではない。</p> <p>また、給食センター化を機に地産地消を取り入れた給食をさらに推進していきたい。</p>
<p><企業誘致について></p> <p>大企業が誘致されると、従業員が住み、人口が増える。田野地区に企業が立地するというような話はないかと。</p>	<p>企業は、アフターコロナを見据える必要がある。西条市は農業・工業分野においてもPRできると自負している。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p><支所再編について> 老人クラブの担当職員は、本庁・各支所で合計4人いるが、サービスセンター化に伴い、本庁1人のみになると聞いた。 高齢者が本庁まで行くのは大変であるため、せめて2箇所に対応できるようにしてほしい。 老人クラブへの補助金も約30%カットされると聞いており、非常に活動しづらくなる。</p>	<p>令和4年の夏頃（8月1日）に、丹原総合支所をサービスセンターとする予定。職員数も現在の34人から20人あまり減るが、市税納付等はコンビニでもできるようにするなど、サービスの向上に努めている。 併せて公民館も地域の身近な拠り所として、相談に応じて担当部署へ繋ぐなどの対応をしていきたい。 限られた財源を効率的に配分しながら、高齢者の皆さんにも西条市に住み続けたいと思ってもらえるよう、精査していく。</p>
<p><市長> 広報広聴活動には力を入れているので、今日の会で不足があれば、遠慮なくご意見をいただき、しっかりお返ししていきたい。このまちを良くするためには、市民の皆さんの力が必要で、一緒に歩んでいただけることを切にお願い申し上げる。</p> <p><田野地区自治会長> 出席者のほとんどが卒業生ではないかと思う。統廃合したら、自分の母校がなくなるという意識を持っていただきたい。私は、残せるのであれば残したいという思いが強い。地域で一体となって盛り上げていかなければ、活力は衰退する一方である。少子化とは言え、生まれてくる子どもはいるので、そんな子ども達のために田野地区を大事にしたい。今後ともよろしくお願い申し上げます。</p> <p>まとめ</p>	

<当日の様子>

